

運動玩具遊びと環境

～ボルダリング～

テーマ設定理由

日々の体力作りの向上に努める当園の特徴を活かし、「遊びと環境」をテーマとして設定する。ボルダリングで「てっぺんまで登る」という目標に向かって体力と思考力をつける。

問いを考える

「てっぺんまで登る」という目標に向かって子どもにあたえる効果・影響について考える

活動期間

令和6年7月～令和7年3月

対象クラス

1歳児 8名 2歳児 9名

環境をデザインする

よじ登ることが大好きな年齢の子どもたち。ボルダリングだけでなく、近所の斜面をよじ登る経験をし、遊びから自分が思うように身体を柔軟に動かせるようになるのか観察した。



活動内容

1歳児クラス



まずは触って手足でホールドの感触を確認しているようです。



「りんご（自分のマーク）までタッチしてみようか」と分かりやすい目標を設定しました。



登ることが楽しめるように、身体を支え、声かけをしながらやりたい気持ちと満足感が味わえるように心がけをしました。



「がんばれー！！」「あともうちょっとだよ」と応援にも熱が入る子どもたちです。
「ちょっと怖い・・・」と消極的な子もお友達が登っている様子を見て安心したのか「やってみる！！」と気持ちを奮い立たせている様子がありました。
運動会で披露し、みんなが楽しめる種目となりました。

2歳児クラス



「先生、どうやって登るの？」とホールドにつかむことができても初めはなかなか身体が持ち上がりませんでした。



季節が変わり、手足の力だけでなく、全身の力、体感が強くなり、自分の力だけ1段目が登れるようになりました。



振り返り

一步手足を滑らせれば、高い壁から床へ落ちてしまうことを経験した子どもたち。むやみやたらにホールドを掴めばよいということではなく、どのホールドに、左右どちらの手足をかけるのか、日々の活動を通し、自分の体型や筋力、これまでの経験を踏まえながら、探求する姿がありました。効率的に登るための思考力や集中力・判断力・忍耐力をボルダリングを楽しみながら学ぶことができました。